

オーディオ実験室収載

iPurifier AC の導入(5)

—CD 再生の効果—

1. はじめに

前報(1)から(4)まで、アナログ系とデジタルの入力系に使用して効果を認めてきましたが、CD 再生ではまだ評価をしていません。今回、アナログ系の iPurifier AC を CD 再生系の電源ボックスに移動させてテストしてみました。

2. iPurifier AC の試聴方法

CD 再生の現状は、[デジタルアキュライザーDACU-500 の導入\(12\)](#)で報告しましたように次のルートになっています。

LHH1001→CCV-5(GPS-777)→DACU-500→DAC-1→SV-1

この場合、CCV-5 には、GPS-777 から 88.2KHz のクロックを入力します。また、DAC-1 のインシュレーターも自作のものからインフラノイズの PSI-1000 に替えています。

しかしながら、トランスポートの LHH1001 と DA コンバーターの DAC-1 の電源は iPurifier AC を装着していない電源ボックスから採っています。

今回、[DMR-UBZ1 の展開\(13\)](#)で報告しましたように、一時的に iPurifier AC を移動させて、ネットストリーミング再生での効果を認めましたので、同じ電源ボックスの NPX-001 から電源を探るようにして、iPurifier AC の効果を CD 再生で確認することにしました。

3. iPurifier AC の試聴結果

CD 再生の現状はデジタルアキュライザーDACU-500 の導入(12)で報告しましたように、かなり満足度の高いもので、まずいくつかの曲を聴いておいて iPurifier AC を装着します。そうすると中低域の響きが豊かになり、わずかに残っていた高域の尖ったところが解消します。全体として落ち着いた品位の高い音になって、聴きやすくなります。一方、フルオーケストラでは堂々とした厚みのある音になりました。

今回の結果と DMR-UBZ1 の展開(13)の結果とあわせて iPurifier AC の導入を検討します。

4. まとめ

CD 再生においても iPurifier AC の効果が認められました。

以上